

# 2014年3月期 第1四半期決算説明資料

2013年8月6日

株式会社 IHI



# 2014年3月期 第1四半期連結決算の概要

(億円)

	'12年度1Q	'13年度1Q	増減
受注高	1,959	2,334	374
売上高	2,728	2,529	▲ 198
営業利益	102	77	▲ 24
経常利益	99	152	52
税金等調整前 四半期純利益	71	151	80
四半期純利益	43	91	48

特段の記載がない限り、各項目の数値は億円未満を切り捨てて表示しております。

# 営業外損益及び特別損益

(億円)

	'12年度1Q	'13年度1Q	増 減
金融収支	▲ 3	▲ 1	1
持分法による投資損益	5	51	46
為替差損益	▲ 17	6	23
その他	12	17	5
営業外損益	▲ 3	74	77
特別損益	▲ 27	0	27

# 組織変更による報告セグメント区分の変更

旧報告セグメントの各主要事業について、変更後の新報告セグメントでは以下のとおり区分する。

旧	変更後	資源・エネルギー・環境	社会基盤・海洋	産業システム・汎用機械	航空・宇宙・防衛
資源・エネルギー	ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, ガスプロセス, 原子力, 医薬	●			
	F-LNG		●		
船舶・海洋	海洋構造物		●		
	【JMUグループ】(※1)				
社会基盤	橋梁, 水門, シールド掘進機, 都市開発		●		
	船用機械			●	
物流・産業機械	環境対応システム	●			
	交通システム		●		
	物流システム, 運搬機械, パーキング, 製鉄機械, 産業機械, 熱・表面処理, 製紙機械			●	
回転・量産機械	車両過給機, 圧縮機, 分離装置, 船用過給機			●	
航空・宇宙	航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム				●
その他(※2)	船用大型原動機	●			
	建機, 農機, 小型原動機			●	
	その他サービス業など				

(※1) JMUグループの業績は持分法投資損益(営業外損益)として開示するため、報告セグメント別受注高・売上高・営業損益には含まれておりません。

(※2) 船用大型原動機, 建機, 農機, 小型原動機以外のその他サービス業などは、変更後において報告セグメント以外の“その他”に区分しております。

# 報告セグメント別 受注高

(億円)

	'12年度1Q	'13年度1Q	増 減
資源・エネルギー・環境	739	861	121
社会基盤・海洋	140	199	59
産業システム・汎用機械	745	873	128
航空・宇宙・防衛	298	390	92
報告セグメント計	1,924	2,326	401
その他	100	137	36
(船舶・海洋)	81	-	▲ 81
調整額	▲ 145	▲ 128	17
合計	1,959	2,334	374

'12年度1Qの数値は、新報告セグメントに組替えて表示しております。

# 報告セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

	売上高			営業利益		
	'12年度1Q	'13年度1Q	増減	'12年度1Q	'13年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	691	567	▲ 124	33	0	▲ 33
社会基盤・海洋	249	243	▲ 6	▲ 7	▲ 11	▲ 4
産業システム・汎用機械	830	902	71	29	47	17
航空・宇宙・防衛	681	830	148	62	78	16
報告セグメント計	2,453	2,543	89	117	113	▲ 3
その他	86	86	0	▲ 1	▲ 7	▲ 6
(船舶・海洋)	355	-	▲ 355	20	-	▲ 20
調整額	▲ 166	▲ 99	66	▲ 34	▲ 28	6
合計	2,728	2,529	▲ 198	102	77	▲ 24

'12年度1Qの数値は、新報告セグメントに組替えて表示しております。

# 営業利益の前年同期比増減要因(報告セグメント別)

(億円)

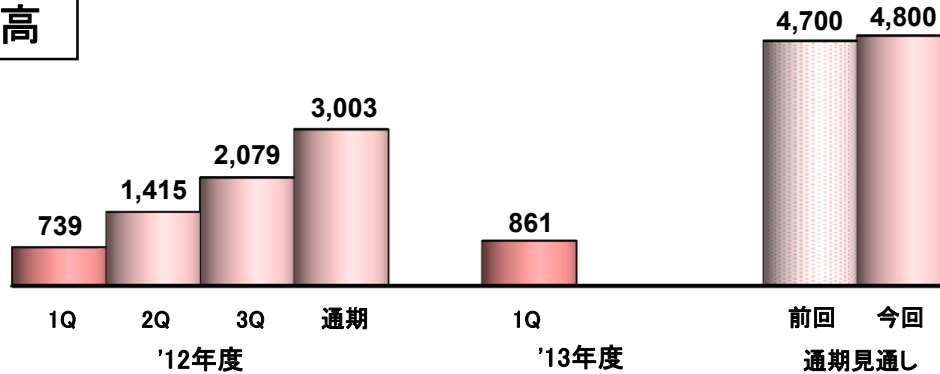
	売上高の 増 減	工事採算 の変動	為替の 変 動	販管費の 変 動	合 計
資源・エネルギー・ 環境	▲ 22	▲ 1	8	▲ 18	▲ 33
社会基盤・海洋	▲ 1	▲ 4		1	▲ 4
産業システム・ 汎用機械	13	28	1	▲ 25	17
航空・宇宙・防衛	12	▲ 18	25	▲ 3	16
報告セグメント計	2	5	34	▲ 45	▲ 3
そ の 他		▲ 1		▲ 5	▲ 6
(船舶・海洋)	▲ 35			15	▲ 20
調 整 額		2		4	6
合 計	▲ 33	6	34	▲ 31	▲ 24

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

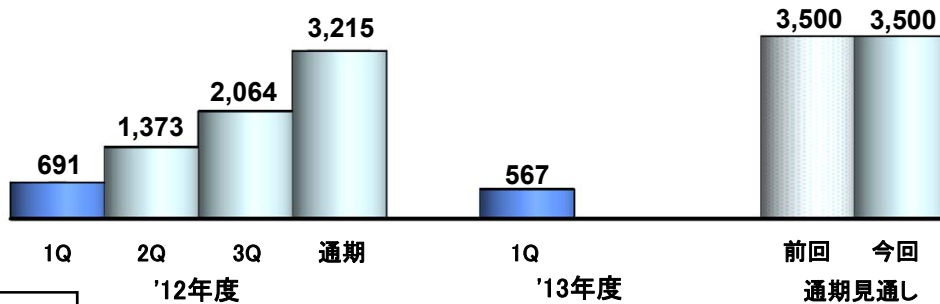
(億円/各期の金額は累計)  
前回: 2013年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, ガスプロセス,  
原子力, 環境対応システム, 医薬

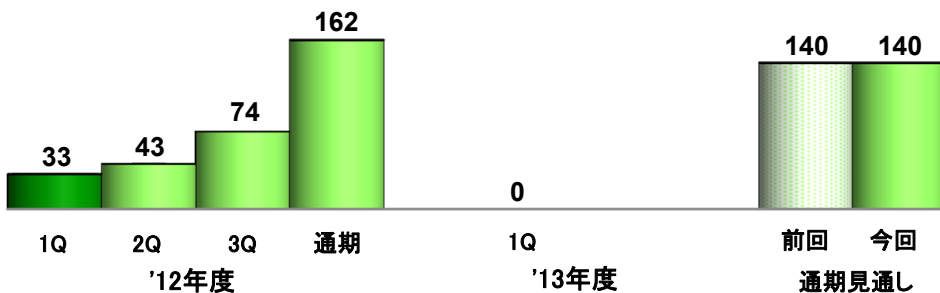
## 受注高



## 売上高



## 営業利益



'12年度の数値は, 新報告セグメントに組替えて表示しております。

### <対前第1四半期 増減内訳>

#### 【受注高】

ボイラが減少したものの, ガスプロセス, 陸船用原動機の増加により, 前年同期比+121億円(+16.4%)となりました。

#### 【売上高】

ボイラや原子力の減収により, 前年同期比▲124億円(▲18.0%)となりました。

#### 【営業利益】

ボイラや原子力の保守・点検工事等が減少したことにより, 前年同期比▲33億円(▲101.3%)となりました。

### <通期見直し 対前回 増減内訳>

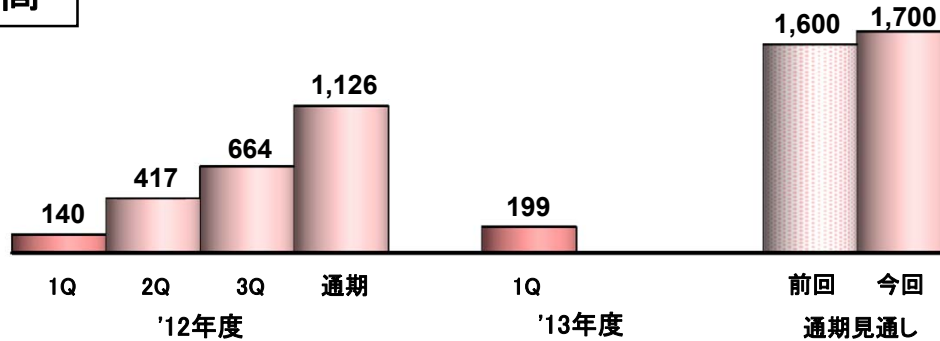
受注高は, 第1四半期の実績をふまえて +100億円増加の4,800億円を見込んでおります。  
売上高, 営業利益は変更ありません。



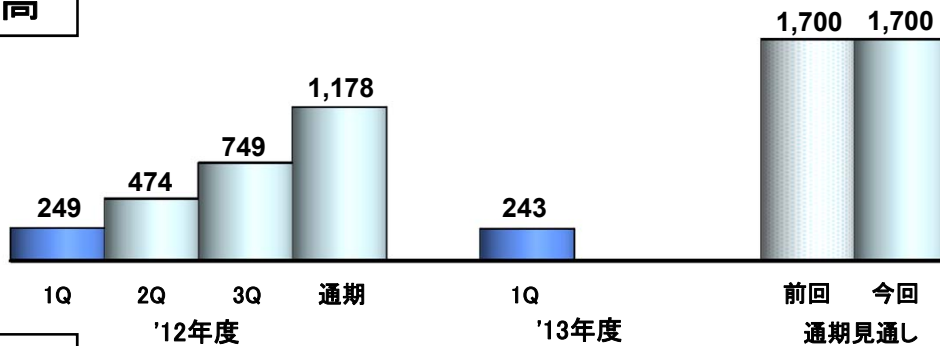
(億円/各期の金額は累計)  
前回: 2013年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁, 水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発, F-LNG, 海洋構造物

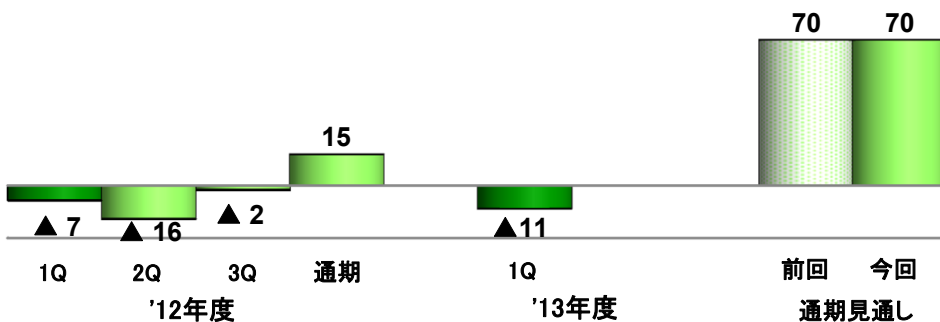
## 受注高



## 売上高



## 営業利益



'12年度の数値は, 新報告セグメントに組替えて表示しております。

### <対前第1四半期 増減内訳>

#### 【受注高】

橋梁, シールド掘進機の増加により, 前年同期比+59億円(+42.4%)となりました。

#### 【売上高】

橋梁が増収となったものの, 海洋構造物の減収により, 前年同期比▲6億円(▲2.4%)となりました。

#### 【営業利益】

国内橋梁で高難度工事が増加したことにより, 前年同期比▲4億円となりました。

### <通期見通し 対前回 増減内訳>

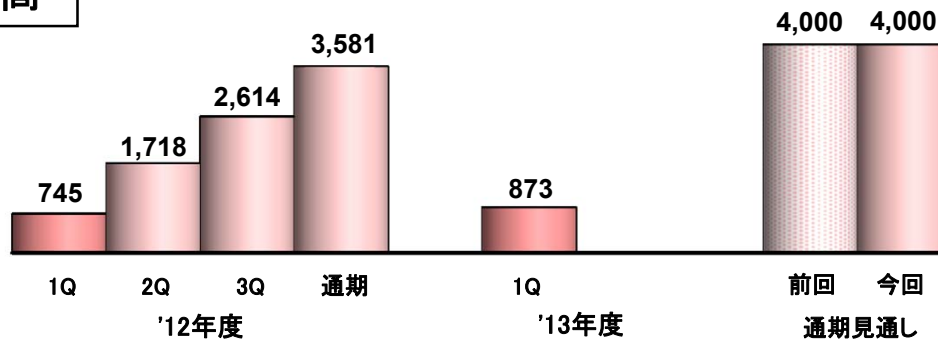
受注高は, 第1四半期の実績をふまえて +100億円増加の1,700億円を見込んでおります。売上高, 営業利益は変更ありません。

# 産業システム・汎用機械

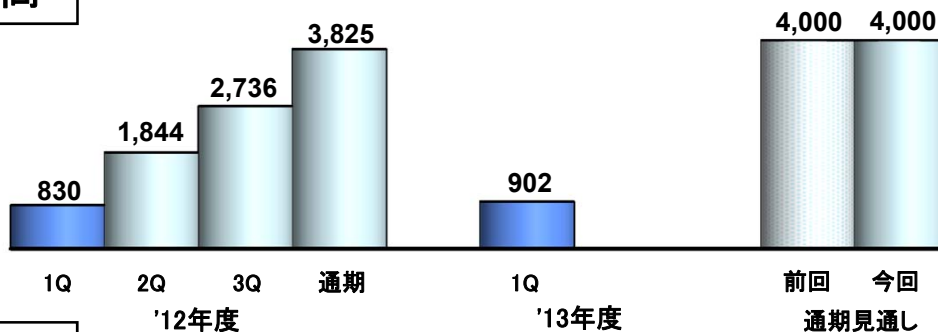
(億円/各期の金額は累計)  
前回: 2013年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流システム, 運搬機械, パーキング, 製鉄機械, 産業機械, 熱・表面処理, 製紙機械, 車両過給機, 圧縮機, 分離装置, 船用過給機, 建機, 農機, 小型原動機

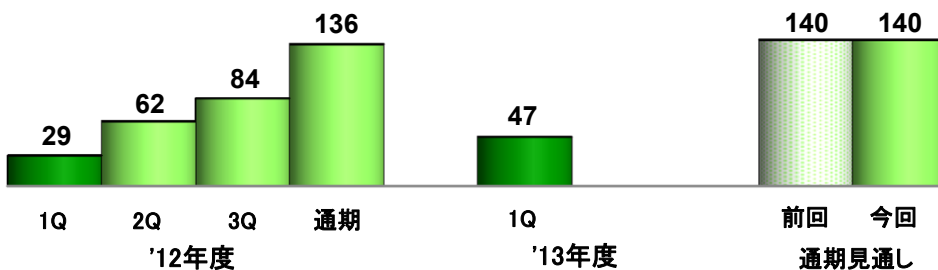
## 受注高



## 売上高



## 営業利益



'12年度の数値は, 新報告セグメントに組替えて表示しております。

### <対前第1四半期 増減内訳>

#### 【受注高】

車両過給機, 熱・表面処理が増加したことにより, 前年同期比+128億円(+17.3%)となりました。

#### 【売上高】

車両過給機, 運搬機械, 熱・表面処理が増収となったことにより, 前年同期比+71億円(+8.7%)となりました。

#### 【営業利益】

上述の増収により, 前年同期比+17億円(+60.9%)となりました。

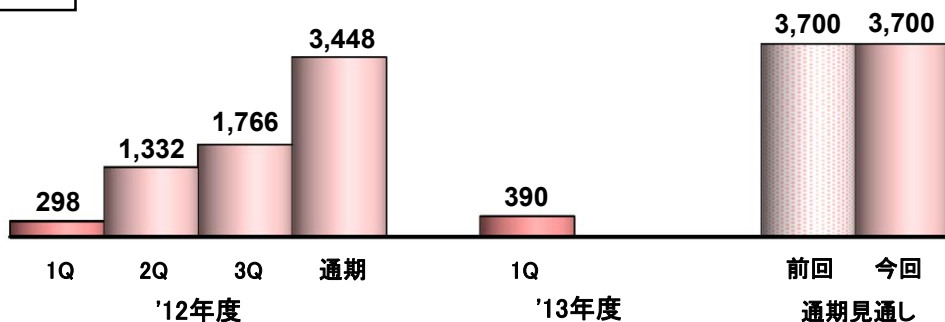
### <通期見通し 対前回 増減内訳>

変更はありません。

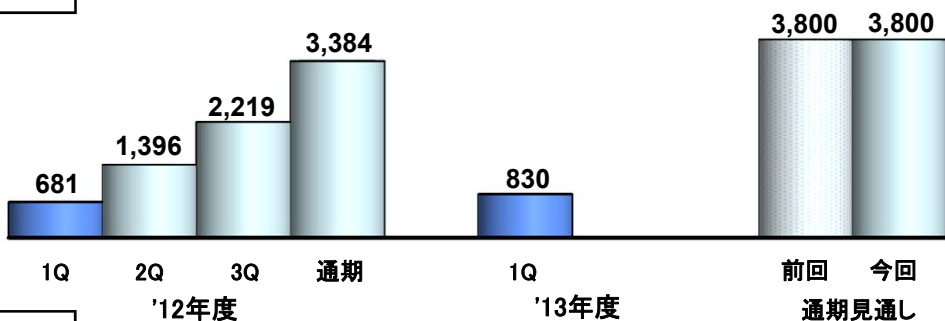
(億円/各期の金額は累計)  
 前回: 2013年5月8日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

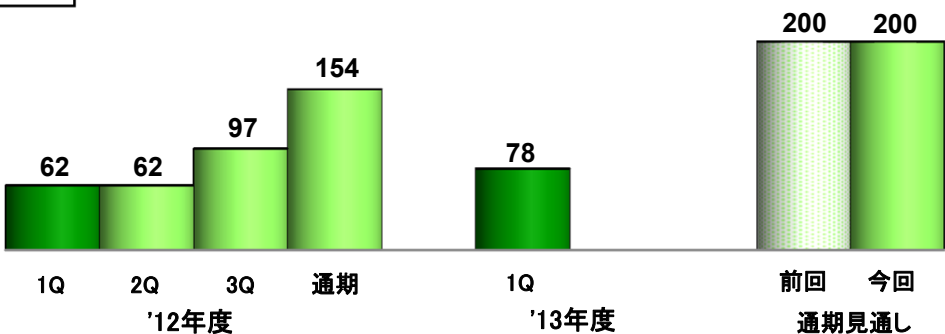
## 受注高



## 売上高



## 営業利益



'12年度の数値は, 新報告セグメントに組替えて表示しております。

### <対前第1四半期 増減内訳>

#### 【受注高】

防衛機器システムとロケットシステム・宇宙利用の増加により, 前年同期比+92億円(+30.9%)となりました。

#### 【売上高】

民間向け航空エンジンと防衛機器システムの増収により, 前年同期比+148億円(+21.8%)となりました。

#### <民間向けエンジンの販売台数> (台)

販売年度	販売台数
'12年度1Q	266
'13年度1Q	261

#### 【営業利益】

上述の増収により, 前年同期比+16億円(+26.1%)となりました。

### <通期見通し 対前回 増減内訳>

変更はありません。

# 貸借対照表

(億円)

	'12年度末	'13年度1Q末	増 減
資産合計	13,642	13,530	▲ 111
負債合計	10,649	10,450	▲ 199
(うち 有利子負債残高)	(3,538)	(3,447)	(▲ 90)
純資産合計	2,992	3,080	87
株主資本	2,827	2,854	26
その他の包括利益累計額	56	109	52
少数株主持分等	108	116	7
D/Eレシオ	1.18倍	1.12倍	0.06改善

有利子負債残高には、リース債務残高（'12年度末：181億円，'13年度1Q末：178億円）を含んでおります。

(1) 海外売上高 (億円)

	'12年度1Q	'13年度1Q
アジア	413	454
北米	329	446
中南米	176	52
欧州	198	307
その他	50	17
合計	1,167	1,277
海外売上高比率	42.8%	50.5%

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'12年度1Q	'13年度1Q
研究開発費	56	60
設備投資額	124	138
減価償却費	97	89

# 2014年3月期 通期連結業績見通し

前提為替レート  
(第2四半期以降)

米ドル 95円  
ユーロ 120円

(億円)

	前回見通し ('13年度通期) A	今回見通し ('13年度通期) B	前期実績 ('12年度通期)	増減 B-A
受注高	14,000	14,200	12,256	200
売上高	13,100	13,100	12,560	0
営業利益	480	480	421	0
経常利益	370	370	362	0
当期純利益	180	230	333	50

# 報告セグメント別 連結業績見通し(受注高)

(億円)

	前回見通し	今回見通し	対前回見通し 増減
資源・エネルギー・ 環境	4,700	4,800	100
社会基盤・海洋	1,600	1,700	100
産業システム・ 汎用機械	4,000	4,000	0
航空・宇宙・防衛	3,700	3,700	0
報告セグメント計	14,000	14,200	200
その他	600	600	0
調整額	▲ 600	▲ 600	0
合計	14,000	14,200	200

# 報告セグメント別 連結業績見通し(売上高・営業利益)

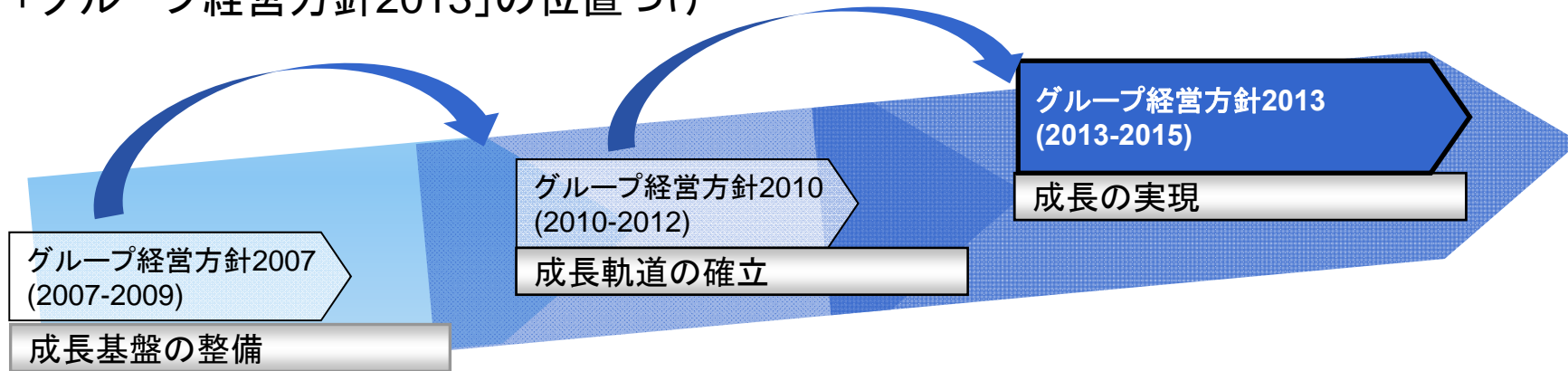
(億円)

	前回見通し		今回見通し		対前回見通し 増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・ 環境	3,500	140	3,500	140	0	0
社会基盤・海洋	1,700	70	1,700	70	0	0
産業システム・ 汎用機械	4,000	140	4,000	140	0	0
航空・宇宙・防衛	3,800	200	3,800	200	0	0
報告セグメント計	13,000	550	13,000	550	0	0
その他	600	10	600	10	0	0
調整額	▲ 500	▲ 80	▲ 500	▲ 80	0	0
合計	13,100	480	13,100	480	0	0

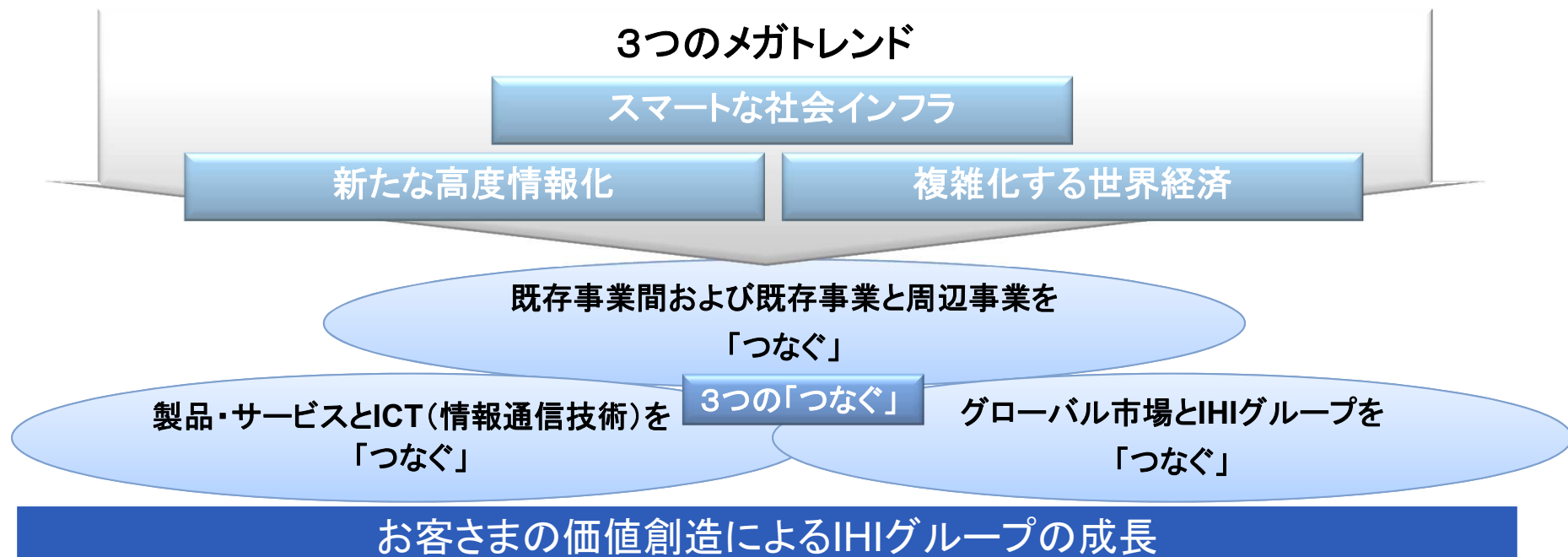


# 参考資料

## ■ 「グループ経営方針2013」の位置づけ



## ■ 「グループ経営方針2013」における経営環境と成長への道筋



## ■「グループ経営方針2013」 経営目標

経営目標	目標数値	目標達成時期
連結売上高	14,000億円	('15年度)
連結営業利益	700億円	
投資総額	4,000億円	('13~15年度)
D/Eレシオ	1.2倍以下	('15年度末)
ROIC	6.5%	

⇒連結売上高14,000億円, 連結営業利益700億円を達成するため, 投資総額, D/Eレシオ, ROICの経営目標を定めております。

## ■「グループ経営方針2013」進捗状況

### 資源・エネルギー・環境

当社の子会社であるIHI E&C International Corporationと米国の大手建設会社であるKiewit Energy CompanyのジョイントベンチャーであるIHI-Kiewit J.V.が、コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約を米国の電力・ガス会社であるDominion社から受注しました。この天然ガス液化設備は、年525万トンの天然ガスの液化能力を有するもので、IHI-Kiewit J.V.が当該設備の設計、建設、試運転及び運転開始を行ない、2017年に完成の予定です。

### 社会基盤・海洋

トルコ イズミット湾横断橋の建設工事を、当社の子会社である(株)IHIインフラシステムと伊藤忠商事(株)のコンソーシアムで、2011年9月に受注しました。

(請負金総額:1,114百万USD／契約納期:2016年2月)

2013年1月に着工し、現在、下部工施工及び上部工工場製作を並行して進めております。

### 産業システム・汎用機械

当社の子会社であるIHIメタルテック(株)が、2013年10月1日を目途として、三菱日立製鉄機械(株)(以下MH)と圧延機を主体とする分野で事業を統合することで、合意しました。今後両社は、製鉄・非鉄圧延機全般における設備技術を充実させ、新生MHとして効率的で安定した経営基盤の構築をさらに進め、事業統合によるシナジーの一層の追求とグローバル展開の加速により、世界市場におけるリーディングカンパニーを目指していきます。

## 参考資料

### ■「グループ経営方針2013」進捗状況

#### 航空・宇宙・防衛

当社の子会社である㈱IHIエアロスペースは、宇宙航空研究開発機構(JAXA)との契約により、小型衛星を効率的に打ち上げることを目的として、イプシロンロケットを開発しております。

このイプシロンロケットは、M-VロケットやH-IIA、H-IIBロケットに使用されているSRB-A(固体ロケットブースタ)の開発・製造で培ったロケット技術を適用し、信頼性の高い機体とするとともに、新世代の地上点検システムや、衛星投入精度向上、衛星搭載環境緩和のための技術を新規に投入した次世代の固体ロケットです。

初号機の打上げが2013年8月22日に予定されており、打上げの成功に向けて、総力を結集して取り組んでおります。

#### その他

当社は、日揮(株)及び当社の持分法適用関連会社であるジャパン マリンユナイテッド(株)と共同で、ブラジルのEstaleiro Atlântico Sul S.A.(アトランチコスル社)への出資を決定しました。同社は、ブラジルの海洋産業の振興を目的として、ブラジルの大手ゼネコン2社を株主とし、ブラジル国立経済社会開発銀行の融資のもとに設立された造船会社であり、エネルギー大手のブラジル国営石油公社Petróleo Brasileiro S.A.(ペトロブラス社)とも強固な関係を有しております。今回の出資をきっかけとして、海洋資源開発設備・構造物分野でのビジネスに積極的に取り組んでいきます。

# IHI

Realize your dreams

## ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。